Canon IP
キヤノンの知財

VOL.01



数字で見るキヤノン知財

キヤノンの知的財産を特徴的な数字と共にご紹介します

Canon
Intellectual
Property

1

日本特許取得ランキング1位（2023年）

キヤノンは2023年、3,840件の日本特許を取得し、日本特許取得件数ランキングにおいて1位に輝きました。事業のコアコンピタンスに関する特許はもちろんのこと、AI/IoT技術や標準技術などの汎用技術に関する特許、さらには、SDGsなどの社会課題の解決に資する特許を積極的に取得しています。ランキング1位の実現は、事業部門・開発部門との連携、および、知的財産法務本部の主導力によるものです。

41

米国特許取得件数 41年連続世界トップ10入り

キヤノンは2024年、2,329件の米国特許を取得し、米国特許取得件数ランキングにおいて9位に輝き、41年連続で世界トップ10入りを果たしました。さらに、キヤノンは、日本企業の中で20年連続で1位を誇っており、技術力の高さと革新性を証明しています。数十年にわたって米国特許件数で世界トップクラスの地位を確保し続けていることは、知的財産を経営の武器として位置づけるカルチャーが全社に根付いている証拠です。

80,000

保有特許件数 80,000件超

キヤノンは、全世界で8万件を超える特許を保有しています。変化する経営・事業を支援し企業価値を向上させるために、時代の変化を先取りした価値ある特許ポートフォリオを創り、これを最大限活用しています。知財を活用することで、競争優位性と将来事業の自由度の確保を両立させ、事業支援を拡大しつつ、開発費の回収にも繋げています。我々は、世界の知財リーダーとして、ポートフォリオの構築力と活用力に自信を持っています。

200

累計特許権侵害訴訟件数 約200件

キヤノンは、自社の特許権侵害に対して厳しい姿勢で臨んでおり、累計で200件近い原告訴訟を提起してきました。訴訟地は日本、米国、ドイツ、イギリス、韓国、中国、ブラジルなど全世界にわたり、そのほぼ全てで勝訴または有利な和解を勝ち取っています。これは「絶対に諦めず、取り得る手段は全て取る」という知財DNAを発揮した結果です。また最高裁判所において後の司法実務の規範となる判例を確立するなど、新たなルールも創り出しています。

60

模倣品の摘発実施国数 約60ヵ国・地域

模倣品はブランドを傷つけるものであり、キヤノンブランドを信頼して製品を購入したお客さまに対して、故障や品質不良などの経済的損失をもたらし、さらには身体に危険を及ぼす可能性もあります。キヤノンは、模倣品流通網をくまなく調査し、警察や行政当局と連携して模倣品を市場から排除する活動を進めています。これまでに模倣品業者の摘発を行った国や地域は、約60に上ります。

193

商標「キヤノン（ロゴ）」を取得している国・地域数 193

キヤノンの知財活動は、1935年に「キヤノン（Canon）」を商標登録するところから始まりました。当社にとって最も重要なブランド名である「キヤノン（Canon）」の権利を保護し、キヤノンブランドの構築と価値の維持向上を図るために、世界中のほとんどの国・地域（2024年７月時点で193ヵ国・地域）で商標「キヤノン（Canon）」を取得しています。

13

IAM Asia IP Elite 13年連続受賞

Asia IP Eliteは、世界的に著名な知的財産メディアのIntellectual Asset Management（IAM）が定量的・定性的な角度から企業・団体を評価し、知的財産価値の創造において卓越する企業を表彰するものです。キヤノンは2011年以降、13回連続受賞しており、キヤノンの知財活動はグローバルで高く評価されています。

29

全国発明表彰累積受賞件数 29件

キヤノンで生まれた発明は、社外からも高い評価を受けています。公益社団法人発明協会主催の「全国発明表彰」において、1958年に初めて受賞して以来、最高の栄誉である恩賜発明賞を含め、29にも及ぶ賞を獲得してきました。こうした革新的な技術をキヤノンの製品・サービスに盛り込むことで、社会課題を解決し、豊かな世の中の創生に貢献しています。

知財の活躍する
フィールド

発明発掘

発明の元となるアイデアを
発明者と共に議論を重ねて
ブラッシュアップしていきます

技術契約

事業支援・開発支援のために
様々な取引先と締結する
契約を作成します

特許

発明を特許出願し権利化を行い
最終的に特許権を
取得します

**会社の土台となる
技術の
基盤を固める**

研究開発

標準

世界の技術発展に貢献するために
標準化活動及び標準特許の取得を
推進します

商標・意匠

商標権や意匠権の取得
権利侵害への対応を
行います

**事業の
優位性と自由度
を生み出す**

事業化

ライセンス

キヤノンの特許力を最大限活用して
他社との間で特許使用の
許諾等をします

経営

IPランドスケープ

知財情報を分析して
経営・事業に資する情報を提供し
経営・事業の成長に
貢献しています

**経営戦略と
経営層の意思決定を
サポートする**

知財戦略策定

事業・研究開発・知財が三位一体となり
会社を成長させる知財戦略を策定・実行し
企業価値を向上させます

IPデューデリジェンス

M&Aの検討段階で
知財権の価値算定などを
行います

マーケット
ガバナンス

訴訟

キヤノンが起こした／訴えられた
知財関連訴訟で勝てるよう
最適な戦略を練り上げます

**社会と繋がり
共創を生み出し
競争で戦う**

ブランドマネジメント

キヤノングループにおける
ブランド価値の維持・向上を目的とした
企画・管理を行います

模倣品対策

キヤノンを装った模倣品を
市場から排除するために
様々な権利行使活動を行います

Canon IP
キヤノンの知財

VOL.02



キヤノン知財で働く人

キヤノン知財で活躍する若手社員の働き方をご紹介します

Canon
Intellectual
Property

おしえて！先輩社員の一日

実際に働く若手社員の一日やプライベートを知ることで、あなたの働く姿が鮮明にイメージできるかも？

3年目先輩社員のとある一日



齋藤 岳
2023年入社
契約担当

休日の過ごし方

ラグビー観戦が趣味です。
2023-2024シーズンはキヤノンイーグルスがプレーオフ進出を果たし、嬉しかったです！



8:00 始業
この日は在宅勤務。
在宅勤務の日は定時より早めに業務を開始することもできます。

9:00 オンライン打ち合わせ
依頼部門とオンラインで打ち合わせ。
契約書作成のためのヒアリングを行います。

10:00 先輩と進捗確認
週に一度、教育係の先輩と進捗確認のミーティングを実施。
担当案件の進め方やスケジュールを確認。

11:00 デスクワーク
打合せ内容をまとめ、契約書作成の方針を検討します。
それを元に契約書の案文を作成。



12:00 ランチ
在宅勤務の日は昼寝をしてリフレッシュ！

13:00 進捗報告
作成した案文を、先輩にチェックしてもらいます。
検討不足や不適切な点がないか、一緒に確認します。

14:00 上司に報告
作った案文の内容を上司に報告します。

15:00 オンライン打ち合わせ
問い合わせに対応。契約相手先から修正を受けた案文を確認し、対案の検討や作成作業を行います。



16:30 終業
今日は早めに勤務を開始したので、その分早めに終業！

6年目先輩社員のとある一日



上村 麻由
2020年入社
特許権利化担当

休日の過ごし方

料理をしたり、アニメやドラマを見たり、映画を見に行ったり。
4DXで映画を見てアトラクション気分を味わうのにハマっています！



8:30 始業
メールチェックやタスク整理、課会で情報共有など。

9:00 打ち合わせ
技術を俯瞰し発明を検討。
開発部門と一緒に発明の発掘や内容のブラッシュアップを行います。



10:00

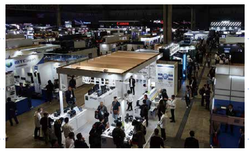
11:00 デスクワーク
特許出願書の作成。発明を特許として登録するために、
知財でいかに肉付けできるかが腕の見せ所！



12:00 ランチ
同期とランチ！ときには先輩や後輩と一緒のことも。
出張販売のお店でお菓子も買います。リフレッシュの時間。

13:00 展示会場へ出発
他社製品や開発動向チェックのため、外部の展示会へ。

14:00 展示会見学
他社の説明員から直接説明を聞いて、情報収集をします。
集めた情報は部門で共有できるようにメモ。



15:00

17:00 直帰
展示会でひととおり情報収集が済んだら、
会社に戻らずそのまま自宅へ。お疲れ様でした！



関さん
2021年入社
知財愛に満ちた特許技術職

上村さん
2020年入社
自ら情報を取りに行く特許技術職

平山所長
1998年入社
人を大事にする改革派所長

江木さん
2021年入社
事業ビジョンを契約に映す知財法務職

齋藤さん
2023年入社
丁寧に部門の声を拾い上げる知財法務職

Special Talk

若手社員が語る！キヤノン知財ってどんなところ？

入社の決め手は？

関：キヤノンの冬季インターンシップに参加したことが決め手です。他社の知財部門インターンは1DAYが多くて、体験できる内容もちょっとしたワークばかりで、自分が実際に働くイメージが全く湧きませんでした。キヤノンでは、じっくりと時間をかけて、発明者へのヒアリングから特許クレームの作成まで、一連の業務の流れを実際に経験できたことで、自分が働くイメージが鮮明に湧きました。それでキヤノンで働きたいと思いました。

齋藤：僕も知財で職種別採用をやっている会社を色々受けました。その中でも国内メーカーの知財分野といえば、一番はやっぱりキヤノンだなと思いました。特許出願件数などの数字面でも一位ですし、インターンで接した先輩社員の方々も、キヤノン知財で働いていることにプライドを持っていました。そういう姿を見て、せっかくなら一番の会社で働きたいなと思ってキヤノンにしました。

江木：私は最初、知財関係を仕事にしようとは考えていませんでしたが、著作権や演劇などのエンタメ系に興味があったので、知財の勉強もしていました。インターンシップ中に、ヒアリングなどを通して開発の方と一体となって次々新しいことをやっていくことがすごく面白いなと思いました。知的好奇心が刺激され、そういった場面に立ち会えるのがすごく楽しいなと感じたので、キヤノンを選びました。

仕事の面白さや、やりがいを感じるのはどんなところ？



関：僕は、高校生の時から知財分野を志望していました。発明がどんなに良くても「良い特許」が取れるとは限らない。逆に、技術的には革新的ではない発明でも、取り方が上手ければ良い特許にもなる。知財担当者の腕次第で発明の良し悪しが大きく違ってくる。それがすごく面白いなと思っていました。

平山：志の高い高校生だなあ！

関：自分の力が成果にはっきりと表れるところに魅力を感じました。「発明の良さを生かすも殺すも知財担当者の腕次第」というのは、日々思いながら仕事しています。

上村：私は元々人と関わるのが好きなタイプなんです。特許権利化の業務では、特許を書き慣れていない発明者へのフォローが必要な場面が多くあります。ヒアリングの仕方や協業相手との関係性の築き方次第で、発明がより光るものになっていく。自分の関わり方の良し悪しが、仕事の結果にダイレクトに反映されるところが、モチベーションになっています。

「特許クレーム」

特許出願時に、特許を取得したい発明を特定するために記載する事項。「特許請求の範囲」とも呼ばれ、特許クレームの書き方によって特許の権利範囲が決まります。技術を言葉で表すのは難しく、知財専門家の腕の見せどころ。



スマホのフリック入力の特許公報

平山：知財担当者の聞き出し方によって、光る発明になるのか、そうじゃないのかというのは、実際あるからね。契約担当の二人はどう？

齋藤：僕は入社前、契約書は型に沿って書くものなのだと思っていました。実際そういう契約も中にはありますけど、あまり多くはありません。実際の契約業務では、ヒアリングやリスク分析をしたり、事業内容や契約相手の考え方に合わせて取り決めの内容を考えたりした上で、それを過不足なく契約書の文章に落とし込んでいきます。こうした作業は結構クリエイティブだと思っていて、契約業務の楽しいところです。



平山：分析力と想像力、そして文章能力が必要な契約業務は確かにクリエイティブ。

江木：私は主に、技術的な情報のやりとりが発生したりする場面や、知財権の扱いについて取り決めをしたりするような場面での契約作成を担当しています。契約を作成する時は、開発部門や事業部門の方に、授受する技術的な情報の具体的な内容や、開発したい製品と最終的なビジネスモデル等の詳細をヒアリングします。その上で、将来の開発や商品の展開も見据えて、それらに支障が出ないようにあらゆるリスクを考慮した条件に落とし込んでいくのですが、ここが面白いです。相手との交渉がうまくいって、考えた条件の通りに合意ができると安心しますし、やっぱり嬉しいです。

平山：契約業務の難しいところは、その事業の将来や未来を見据えた上で、リスクも考慮して結ばないといけないところ。でもリスクばかり考えていたら契約は締結できないし…そこのバランス感覚、難しいよね。

江木：やっぱり新人の頃は、リスクの考え方は正直分からなかったです。でも、ある程度数をこなすと、キヤノンとしてどういうスタンスでやるのかがなんとなく分かってきます。開発・事業の最終的なゴールを考慮すると、最低限確保しないといけない条件が決まってくるので、そこの見極めが重要だと思っています。担当する案件を重ねることに、絶対にここは押さえないと今後の事業・開発に支障が出る可能性があるという点を、どれだけ自分の知識として吸収できるかが大事かな、と感じています。

平山：頼もしいね！

職場の雰囲気は？



上村：私と関くんが勤務している川崎事業所は、知財部門がワンフロアに集約されています。僕の話に耳を傾けてくれますし、いつ質問しても、必ず手を止めて聞いてくれます。こういう環境は、仕事の覚えも上達も早くします。質問しやすい環境で働くことができて、恵まれているなと思います。

平山：上司や周りの人に話しかけやすい空気は大切だね。先輩たちとの関係はどうかな？

関：先輩たちとも仲良しです。キヤノンの人は、優しい人が多いと思っていますが、その中でも特に、知財には優しい人が多い気がします。

江木：私の部門も働きやすい雰囲気だと思います。契約業務を行う部門は、若手が最初に配属される職場なので、同年代の方が多いこともあって話しやすい環境です。相談事があるときは、オンラインでも対面でもすぐに調整して時間を取ってもらえます。自分で試行錯誤しながら、フォローもしてもらえる。すごく仕事がしやすいポイントだなと感じています。

齋藤：質問すると、それに対する回答だけではなく、そういう時の考え方や類似ケースでの失敗談等、もう一歩踏み込んだアドバイスをもらえるのがありがたいです。それだけで新しい知識も身に付きますし、成長できるなと感じます。

平山：キヤノン知財の強みの一つは、風通しの良い職場と成長できる環境だね。

働きやすさは？

上村：在宅勤務制度があるおかげで、働きやすさが上がっていると感じます。業務や予定に応じて在宅と出社をフレキシブルに切り替えできているのがいいです。技術職の中では特許技術職は女性比率が高いと思います。3分の1ぐらいが女性かな？同世代の女性も多く安心感があります。休みも割と取りやすいです。忙しい時もあるけど、自分で業務を調整して休暇を取れています。

平山：残業時間はどう？

齋藤：僕はほぼゼロですね。

関：僕は、繁忙期は月40時間くらい。

江木：2～3年目まではあまり残業していませんでした。最近は残業がありますが、業務状況に合わせて、自分で調整することができています。

キヤノンの強みだと思うのはどんなところ？

関：キヤノンは、知財分野だと業界トップだと思います。特許のクレームも、一字一句、句読点の位置まで事細かに気を遣い、ベストの表現を考え抜いています。このようなレベルの高い環境に身を置くことで、高いスキルが身に付き、多種多様な経験ができるので、将来の幅も広がると思います。他では学べないようなスキルが身につきます。



平山：そうだね。特許技術職の皆さんは、たくさん特許を書いているから、他社と比べても圧倒的にレベルが高いと思う。担当分野を極めた一流のプロフェッショナルに成長できるのがキヤノン知財の強みの一つだね。

齋藤：他の強みは、事業部門も開発部門の方も、知財の意見をしっかり聞いてくれて、事業・開発活動に知財視点が組み込まれているところでしょうか。そして、知財部門が、事業部門や開発部門から頼ってもらえる存在であるのが、知財マンとしてはすごく嬉しいと思います。やりがいを感じます。

江木：頼ってもらえると、こちらからも積極的に動きやすいです。言われた通りに定型的に処理するのではなくて、いろいろと提案しようという思いになりますし、積極的なフォローができます。自分でいろいろな事を考えた上で、トータルで提案できる力がつくなと感じます。

上村：私は、特許部隊の大きさが強みだと思います。人数が多い分、分担してそれぞれの分野を受け持っているので、各分野のプロフェッショナルがたくさんいて、それが知財総合力の高さを実現していると感じます。担当分野に専念できるからこそ、発明者と向き合う時間もしっかり取れ、優れた発明を発掘し、優れた特許に仕立て上げることができます。また、人数が多いということは、異なる分野のプロフェッショナルの意見が聞けるということでもあり、それは自分の思考の幅を広げる意味でも、非常にプラスになります。

平山：ジョブローテーションにより担当分野を変え経験の幅を広げ、一流の知財パーソンに成長できる環境が整っていることもキヤノン知財の強みだろうね。ローテーションは知財本部内に限らず、官公庁や海外グループ会社への出向ルートも多数用意されていて、かなりユニークな経験ができると思う。私自身、知財ジェネラリストに成長することができたのも、特許権利化・訴訟・海外マネージャー・知財戦略企画・標準・組織創り等を経験することのできた、この環境のおかげだと思っているよ。

Canon IP
キヤノンの知財

VOL.03



キヤノン知財の６つの特徴

キヤノン知財の強さを支える６つの特徴をご紹介します

Canon
Intellectual
Property

知財マインドの全社浸透

NHKドキュメンタリー番組「プロジェクトX」でも紹介された「ゼロックスとの戦い」から生まれた知財重視の風土が脈々と受け継がれています。知的財産は経営・事業発展に不可欠なものであり、日常的に知財活動を行うマインドが全社に浸透しています。「論文を読むなら特許を読め。レポートよりも特許を書け。」は今でも語り継がれる知財DNAであり、強い特許を生み出す土壌が整っています。



強力な特許ポートフォリオ

キヤノンにおける知財活動の特徴は、経営・事業を支援するために、知的財産を最大限活用しているところにあります。他社との交渉や訴訟、共創パートナー創りに活用できる特許とは何かを考え、ビジネスを成長させるための特許ポートフォリオを構築しています。その特許ポートフォリオのサイズは世界でも有数であり、保有特許件数は全世界で8万件を超えるものとなっています。



CEO直轄専任役員

キヤノンの知財トップは、歴代、経営トップ直下の知財専任役員であり、研究開発部門・事業部門の役員と共に、会社の経営を担っています。知財専任役員が経営に携わることにより、研究開発活動・事業活動に知財の意思が色濃く反映されており、知財面からビジネスを強化しています。役員間の日常的なコミュニケーションを通じた知財マターの迅速な意思決定も、キヤノンの強みです。



学生の皆様へ

「変化こそが唯一不変なものである」
戦争、災害、パンデミック、そして技術革新。これまでの私たちの歴史を変えてきた大きな事象が、2020年台に同時に起こり、それにより世界の政治・経済、市場、人々の生活様式や価値観までもが大きく変わりました。そして「第四次産業革命」の時代に入り知的財産を取り巻く環境も目覚ましく変化しています。

いま我々に求められていることは、日々の変化に対応するとともに、あらゆる変化の兆しを敏感に読み取って、自らの手で未来を引き寄せ、知的財産に関して長期的な高い視点を経営に反映する、そして我々自身も常に変化し続けることにほかなりません。これにより、キヤノン知財は、将来にわたる重要な経営資源である知的財産を最大限に有効活用し、事業、研究開発と一体となった知的財産戦略を展開しています。

キヤノンの知的財産部門の魅力は、知的財産に精通するスキルを持てることに加え、ビジネス戦略に貢献できること、グローバルに働くことができること、そして何より創造性のある仕事ができることにあります。

我々の視線の先には常に世界があります。知的財産は国境を超え、我々の活躍の舞台はグローバルです。知的財産を志す学生の皆さん、ぜひキヤノン知的財産のメンバーとして働いてみませんか？



キヤノン株式会社
常務執行役員 知的財産法務本部長
真竹秀樹

豊富な人員

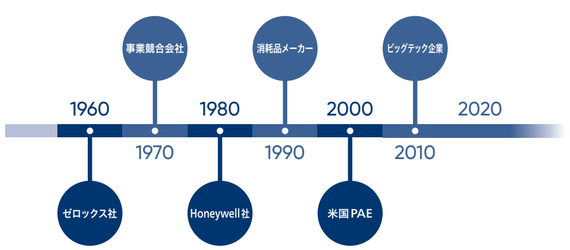
キヤノン知財は世界有数の規模を誇り、その人財の質と幅広さも自慢です。技術と特許に精通した特許技術者、訴訟やライセンス交渉のエキスパート、技術契約のスペシャリストなど、多彩で優秀な知財人財が集まり、世界最高レベルの知財活動を遂行しています。ハイレベルな仲間との仕事を通じて日々成長できる刺激的な環境です。



戦う知財

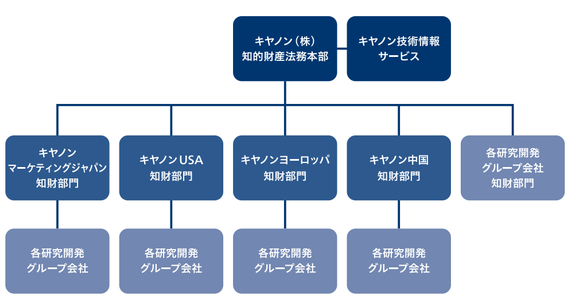
1960年代の複写機の特許を巡る米国ゼロックス社との争いに始まり、キヤノンは競合他社や消耗品業者との多くの特許係争を経験してきました。2000年代以降は、PAE※やビッグテック企業と戦ってきました。キヤノンは、エンジニアと知財メンバーとの緊密な協力の下、絶対に諦めることなく、あらゆる手段を用いて戦い、勝利を積み重ねてきました。このようにして築き上げたのが、今ある「戦う」知財です。

※PAE（Patent Assertion Entity）：専ら特許の権利行使によって収益を得ようとする者



知財ガバナンス

キヤノンでは、知財のグローバルマネジメントルールを定め、キヤノン株式会社の知的財産法務本部がグループの知財を統括しています。グループ全体最適の視点でグローバル知財オペレーションができる体制を構築し、訴訟やライセンス活動で連携するとともに、特許ポートフォリオを全体最適化し、グループの利益の最大化を図っています。



先輩たちが答えます！

キヤノン知財

なんでも

Q&A

Q キヤノン知財が求める人物像は？

知的好奇心が旺盛で、主体的に取り組める方。自分の意思を強く持ち、周囲を巻き込んで、主体的にチーム活動ができる方。論理的な思考が求められる場面が多い仕事です。OJT と研修が充実していますので、入社時点では知財の知識がなくても心配する必要はありません。



Q 研修制度は充実していますか？

はい。キヤノンの知的財産部門では、新人向けに知的財産の基礎から学べる研修を用意しています。特許については、特許要件、登録までのプロセスといった基礎知識に始まり、特許明細書の作成といった実践的なスキル習得も行います。このほか、意匠、技術契約、製品分析など、キヤノン知財で行っている業務を網羅しています。





Q 休暇は取得しやすいですか？

はい。休暇取得に関する職場の理解が高く、自分で業務をコントロールでき、休暇を取得しやすい環境になっています。フリーバカンス制度を利用して1週間以上の海外旅行をする人も多く、自律したワークライフバランスを実現できます。



Q 職場の様子や雰囲気を教えて下さい。

高いレベルの仕事を志すメンバーが日々切磋琢磨しており、熱心な議論が交わされる場面がよく見られます。何事にも妥協せずに突き詰める姿勢が日頃から表れています。一方で、メンバー同士の仲が良いのも特徴で、先輩・後輩、上司・部下の垣根なく相談しやすい雰囲気です。人間関係が良く、周囲からの支援が充実していることも知財本部の特徴です。また、在宅勤務制度を取り入れており、柔軟な働き方が可能です。











Q 育児や介護との両立は可能ですか？

両立しやすいです。キヤノンでは短時間勤務制度等により家庭の事情に合わせた多様な働き方が可能なため、育児・介護と両立しながら安心して働くことができます。急なお休みをとらなくてはいけない時にも、上司や同僚がしっかりサポートしてくれます。育児休業を利用したほぼ全員の方が復帰している知財本部は、キャリア形成に適した職場です。



Q 海外勤務の機会はありますか？

あります。キヤノン知財では、国際的なバランス感覚と高い視座を持った人財の育成に力を入れており、常時10名を超える知財メンバーが海外のグループ会社に駐在しています。

拠点地：米国、中国、英国、フランス、オランダ、シンガポール、
オーストラリア



Q 地方の出身ですが、都会生活が不安です…

入社時の住所から通勤できない方に対しては、引越費用の全額補助に加え、50万円の支度金（2024年実績）を支給する制度があり、入社時の経済的な不安が少なくなっています。職場の雰囲気は明るく、話しやすい先輩が多いため、生活面でも色々と相談できる環境です。
職場でキヤノンイーグルスの応援に行くこともあり、新しい土地でも仲間づくりに困ることはありません。知財本部には地方出身のメンバーも大勢いますので、役に立つアドバイスが多くもらえることでしょう。





わたしのキャリアストーリー

キヤノン知財
管理職　蒲田歩美

学生時代は今のようなキャリアを歩むとは全く考えていませんでしたが、キヤノン知財に入り、官公庁や海外でも働いてみたいと思うようになりました。異なる分野で経験を積みたいという人、一つの分野を極めたいという人、色々な選択肢があるのがキヤノン知財の良いところだと思います。



2007
特許技術職として入社

企業説明会にて、知財に興味を持ち入社しましたが、知財の知識はほぼゼロ。
知財の仕事について一から研修で学びました。

2008-2014
R＆D分野の特許を担当する部署に配属

- 将来要素技術や医用技術の出願権利化

大学との共同発明などの特許を担当。大学の先生方の話についていけず、発明の理解に苦労したこともありました。

2014-2016
特許庁国際協力課へ出向

- アセアン担当として知財制度整備支援を行う

仕事内容も組織も文化も全く異なる行政の仕事。正直、かなり鍛えられました。
外部からの視点、仕事の進め方、特許庁の方との繋がりなど、その後の仕事に大いに役立っています。

2016-2021
プリンティング分野の特許を担当する部署に異動

- アプリや通信関連技術の出願権利化

UIや通信などの汎用技術分野の知財を担当。事業や製品に近い知財分野がこんなにも面白いとは思っていませんでした。
訴訟の対応も良い経験になりました。

2021-2024
キヤノン中国へ出向

- 特許以外の幅広い業務も経験

希望が叶った海外駐在。
世界は広く、知財の仕事も思った以上に広いということを実感しました。

2024-
イメージング分野の出願権利化を担当する部署の管理職に

新たなチャレンジ！

余暇の過ごし方

旅行が大好きです。中国ではたくさんの世界遺産を巡り、圧巻の自然景観と歴史の長さに圧倒されました。仕事とプライベート、どちらも楽しいのが一番ですね！

